



南房総のハズシ

クラスに気になる子はいませんか？

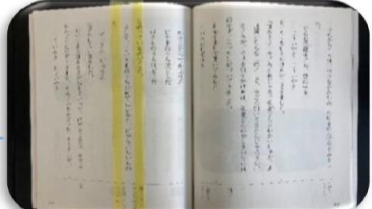
新年度がスタートし、1か月が経ちました。子供たちは新しい学級に慣れ、授業が本格的にスタートしている時期だと思います。そんな中、学習や生活の中で気になる子が見られるようになってきていませんか。今回は学習や生活の中で気になる子への支援を考えていきたいと思います。

学習の中で～読み書きが苦手な子～

読む・読み取る

＜困難さ＞	＜指導の工夫の意図＞
文章を目で追いながら音読や黙読をすることが難しい	自分がどこを読むのかが分かるように

＜手立て＞

① 指等で文字をなぞる ・読み始めの部分に指先などを合わせる。その後、音読の速度に合わせて指を動かす。	② 文字を認識しやすくする ・教科書を拡大することで、文字を大きく、行間を広げる。	③ 範囲の焦点化をする ・スリットを活用して視覚に入る情報を抑制する。
	ポイント！ 学習者用デジタル教科書の活用も有効な手立ての1つである。 ポイント！ スリットに透明な素材を使うことで前後の文の関係が捉えやすくなる。	

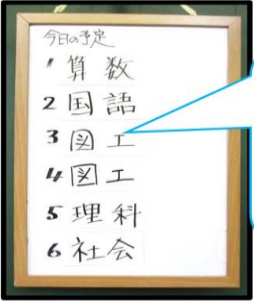
書く(描く)・書きとる

＜困難さ＞	＜指導の工夫の意図＞
鉛筆を正しく持って書くことが難しい	鉛筆を正しく持ったり、それぞれに適した書き方を選んだりすることができるように

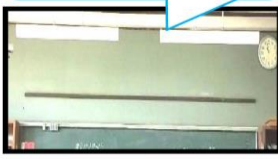
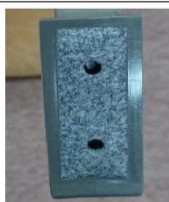
＜手立て＞

① 正しく持つことで鉛筆が動きやすくなることに気付くようにする ・市販の補助具などを活用する。 ・線のなぞりをする。 ・塗り絵を活用する。		
 	ポイント！ 正しく鉛筆を持つことで、「書きやすい」「上手に鉛筆を動かすことができる」と実感できることが重要である。	
② ICT機器を活用して文章を書く ・ワープロソフトやプレゼンソフトを活用する。	③ 書く文字の量を減らす ・ノートに書き記す事柄の軽重が分かるように板書の文字の色を変える。 ・授業終了後に板書を撮影する。 ・ワークシートを活用する。(板書と形式をそろえ、内容の軽重に留意して作成し、個別に対応する。)	

状況の把握をする

<困難さ> 日課や授業の活動内容に 見通しがもてずに不安感がある	<指導の工夫の意図> 1日の学習予定や授業の流れ等 学習活動の見通しがもてるように
<手立て> ① 1日の学習予定を掲示する  ポイント! ・業間休みや昼休みの行事 ・教室移動の有無 ・給食の献立や掃除場所 ・下校の時間 等 表示できるとよい。 ② 1時間の流れを視覚化する  ポイント! ① 電子黒板を活用し、タイムリーな掲示物として活用する。 ポイント! ② 残り時間が一目で分かるタイマーを活用する。	

刺激の調整をする

<困難さ> 掲示物や周囲の音が気になり 集中することが難しい	<指導の工夫の意図> 刺激を調整し学習活動に集中できるように
<手立て> ① 掲示物の配慮 ・教室前面の掲示物を整理して、刺激を少なくする。 ・必要な掲示は可能であれば側面に移動する。 ポイント! 刺激の少ない教室前面  ② 座席の配慮 ・外の様子が気になってしまう児童生徒は、廊下側に座席を用意したり、窓側の場合はカーテンを閉めたりする。 ・空調の影響を受けやすい児童生徒は、エアコンの風向きを考慮した座席を考える。 ・緊張によりトイレに行く回数が多い児童生徒は、廊下に出やすい場所に座席を用意する。 ③ 音に対する配慮 ・椅子や机の脚にカバーなどをつけ、音の刺激の軽減をする。   ポイント! 聴覚過敏の場合は、イヤーマフや耳栓を使用することも有効である。その際は本人や保護者の気持ちを確認しながら使う場面を一緒に決めることが大切である。 	

この資料は、千葉県教育委員会が出している「学びの困難さに対する指導の手立て集」から引用しました。この他にも具体的な手立てが載っていますのでぜひ参考にしてみてください。

前任者から引き継ぎ、4月から担任した児童生徒については、新たな気付きや発見が出る頃だと思います。より具体的な指導のイメージがもてるよう、引継ぎの時に確認した「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」などを再度見返してみましょう。

個に合わせた手立てがあることで、どの子供も学ぶ楽しさを感じることが出来る授業づくりにつながります。様々な視点から子供への支援を考えていきましょう。

おいせ

「学びの困難さに対する指導の手立て集」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shien/tokubetsushien/manabinokonnnannsa.html>

